

朝夕も涼しくなり、大変過ごしやすい季節となりました。スポーツに、学問に最適の気候です。私はダイビングを趣味としていますが、この時期は透明度が上がり、海中の美しさは一入です。ゴルフやそのほかのスポーツ、読書にも良い季節です。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号の表紙には、福嶺紀秀先生からしっとりとした秋の風情漂うお写真を頂きました。

第39回沖縄県学校保健・学校医大会報告(真栄田常任理事)は、「災害発生時における学校現場の対応等について」と題して、多くの参加者を集め開催されました。津波ハザードマップを紹介された琉大工学部仲座栄三教授の、「確かなのは、歴史の教えであり、海拔高度であった。」というお言葉はまことに印象的でした。第3回沖縄県・沖縄県医師会連絡会議報告(安里常任理事)では、任意予防接種などを行政措置予防接種に指定するように行政に働きかけました。万が一の後遺障害発生時により手厚い保障が得られるように、早期の指定実現が望まれます。第1回なごみ会幹事会・懇談会報告(真栄田常任理事)、仲井真知事への医療に関わる事業税非課税措置存続についての要望に関する報告(玉城副会長)もご一読下さい。社会保険診療報酬に関わる事業税の非課税措置の存続と、自由診療分に対する軽減税率の存続は、会員の事業継続に必須のもので、知事の協力は重要と考えます。第2回マスコミとの懇談会(玉井理事)は、「地域医療(かかりつけ医)に何を求めるか」をテーマに開催されました。今回のテーマはマスコミ関係者に大変好評で多数の出席があり、活発な討論が行われた模様です。分科会、研究会からは、安里浩亮会長より循環器科会、近藤毅会長から沖縄心身医学会の活動

に関するご報告があります。

生涯教育コーナーは普天間朝上先生の「上肢抹消神経障害」についてです。一般医から専門医まで役立つ丁寧な解説です。学生時代以来の整形分野に躊躇しましたが、大変わかりやすく解説してくださっています。プライマリ・ケアコーナーは、「心身症としての身体疾患の発生機序・病態の心療内科的理解の進め方」として原信一郎先生が具体例に基づき詳しく解説してくださいました。インタビューコーナーは、琉大医学部附属病院地域医療システム学講座教授にこの度就任された小宮一郎先生です。お忙しい中、快く取材にお応え下さいました。

月間行事お知らせコーナーは、安里義秀先生がSIDS対策強化月間によせて、発生数は減少傾向にあるものの今後も引き続き啓蒙が必要と、宮良美代子先生は性の週間に寄せて、性感感染症は少年期・思春期からの積極的な取り組みが必要で、特に思春期外来の重要性についてそれぞれご執筆くださいました。若手コーナーでは、厳しい指導医からのメッセージを嘉数真教先生が、若手医師への熱いエールを堀川智史先生からご寄稿いただきました。本の紹介は、山代寛先生のタバコに関する4冊の書籍の御紹介です。禁煙指導に役立ちそうです。随筆2編は、3基ものお墓(一つは刻銘碑)を建てられた貴重なご経験を伊地柴敏先生が、アメリカ南部の州立病院での日本とはかけ離れた医療事情を大橋容子先生がそれぞれご投稿くださいました。今回も会員の皆様のご協力により大変充実した内容となりました。心より御礼申し上げます。最後に、来春開設予定の「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」のお知らせも合わせてお読み頂ければ幸いです。

広報委員 白井 和美